生活図像資料と文献書誌データベースの作成

福 田 ア ジ オ
FUKUTA Ajio

I 課 題

我々の 21 世紀 COE プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の事業展開の柱の一つに「図像資料の体系化と情報発信」が設定されている．この課題を担うのが第 1 班である．「図像資料の体系化と情報発信」は，プログラムの中ではもっとも分かりやすく，イメージも抱きやすい課題である．しかし，それだけに，図像資料は，近年では美術作品として鑑賞の対象として扱われるだけでなく，人類文化の様々な側面を引き出す新たな資料群として注目され，活用が試みられることも多くなった．その活用の成果を提示したり，検討を試みた研究が少なからず出されている．その点では，図像資料の体系化は目新しい研究課題とは言えない．本プログラムが世界的な研究拠点を形成するなかで，図像資料をどのように収集し，それを解析し，いかに人類文化研究に貢献するかは，より目標を明確にし，先行する諸研究とは異なる内容，異なる視点，そして異なる成果を示さねばならない．初年度はそのための検討を行い，来年度以降の本格的な研究活動の内容を策定することに活動の重点を置いた．

幸いなことに，我々の研究計画の策定にあたっては，前提となる蓄積があった．言うまでもなく日本常民文化研究所が編さんした『絵巻物による日本常民生活絵引』全 5 巻である．それは，日本の古代から中世にかけて描かれた絵巻物を素材として当時の生活を引き出すという，それまでになかった新しい試みであった．これを計画した渋沢敬三は，字引と同じように「絵引は作れぬものか」と考え，「美術的観点を度外視して」（渋沢敬三「絵引は作れぬものか」『犬歩当棒録』1955 年，後に『渋沢敬三著作集』第 3 巻，平凡社，1992 年），絵巻物から生活を描いた場面を取り出し，そこに描かれた事物に名称を付け，さらにその組み合わせた図柄全体から当時の生活を読み取るという作業を行い，各絵巻毎に編集したものであった．この編さん当時はもちろん現在のようなスキャナという便利な機器類は存在せず，絵巻物から図像を取り出すためにはそれを模写することが唯一の方法であった．民俗学研究者でもある日本画家に依頼して，絵巻物を写し，場面毎に書かれた事物と内容を引き出して，研究所員が事物に名称を与え，また読み取り作業を行った．『絵巻物による日本常民生活絵引』は前人未到の成果である．これ以降にもこれを凌ぐものはない．しかし，1965 年から刊行が開始された当時はほとんど売れなかったという．ところが，1984 年に神奈川大学日本常民文化研究所の改訂版が出されると，評判となり，今では日本中世生活史や中世文学を研究する際の座右の書として活用されている．時代の変化がそこには読み取れるし，それから 20 年を経過した現在はさらに図像資料への関心は高まり，『絵巻物による日本常民生活絵引』は重要なデータ集となってきている．

我々の「図像資料の体系化」は，この『絵巻物による日本常民生活絵引』を前提にし，第一にそのものをマルチ言語版という方式で世界の共通財産にすることを行い，併せて第二に『絵巻物による日本常民生活絵引』が専ら日本の古代・中世の図像を扱ったのに対し，それより新しい近世・近代の図像を体系的に整理し，そこから近世・近代の生活の具体像を絵引きとして編さんする作業を行い，さらに第三に中国・韓国を中心とした東アジア生活絵引きを編さんするためのデータ収集を行うことの三つを当初から課題として設定していた．この三つの課題をどのように具体化するかが初年度の検討課題であり，その課題実現のために予備的な情報収集を行うことであった．

II　情報の収集

我々第1班の三つの達成目標のうち，2番目の目標は，近世・近代の図像資料を収集整理し，5年後に近世・近代生活絵引きの一部を刊行開始することである．現在のところでは，近世編と近代編に大きく分けて，各種の刊行物から図像を収集し，それらをスキャナで読み込むか，デジタル写真に撮影し，デジタル化することがその第一歩である．集積したデジタル図像から生活を描いた図像を精選し，それらに描かれた事物に名称を与え，さらにその図全体から意味するところを読み取る作業を進め，それらを入力しデータベース化する．したがって，先輩たちが試みた『絵巻物による日本常民生活絵引』の編さん方針を継承するものである．しかし，中世までの絵巻物と違い，近世，近代に書かれた図像は無数といって良い．その中から主として観察や経験にもとづいて生活を描いた図像を選び出し，さらに各種の刊行物の挿絵や図解を選び出し，また絵師たちが描いた美術作品の中から生活の場面を抜き出して，それら描かれた内容を解析して，名称を与え，また描かれた図像全体を読み取る．中世までの対象とは異なり，その対象は多様であり，豊富である．

それらを資料化するためには，まず最初に近世・近代に描かれた図像が収録された文献の詳細な書誌データを収集することである．その場合，もちろん直筆で描かれた原本や写本が重要な資料になることは言うまでもないが，それらは多くが個人に秘蔵され，また美術館や資料館に収蔵されて，図像のデジタル化が非常に難しいものが少なくない．それらを絵引き編さんの基礎資料として活用することには多くの困難が予想される．そこで，第二の方法として，近世・近代に書物として刊行された中に描かれた図像を活用することにした．日本の近世・近代の出版活動は盛んであり，膨大な書物が刊行された．とりわけ近世の書物には多くの図像が挿入されていた．木版本は図像を挿絵として入れることが比較的容易であり，多くの小説類は挿絵が挿入されている．単なる挿絵ではなく，説明の重要な要素として図像を入れた書物も刊行された．経験科学ともいうべき研究の進展が図像を豊かにした．農書はその代表である．さらに図像を中心とした書物も様々な分野で出されるようになった．名所図会と冠された地誌が日本各地で刊行されたことにそれは示されている．

近世には日本各地で暮らす人々は書物を通して図像に親しみ，さらに自らも観察の結果や経験・見聞を図像化することを行った．地方史研究の進展によって，それら生活の中で描かれた図像が各地で発見されるようになった．近代になると，活字印刷による出版になり，むしろ書物に図像を挿入することは少なくなった．活字中心の書物刊行が進んだ．しかし，学校教育の普及によって，人々の図像に親しむ機会は増え，自ら日記や旅行記を図像を交えて記録することも多くなった．恐らく，近世以

降の日本の人々は世界的に見ても生活の中で図像にもっとも親しんできたものと思われる．

近世・近代に図像を含んで刊行された書物は多いが，それらを図像に指標を設定しての情報収集は行われてこなかった．我々の活動の最初にすべきことは，先ず近世・近代に刊行された図像を含んだ書物についての情報を収集することであるが，それを刊行された当時の実物によって直接行うことはこれまた非常に困難である．近世・近代に刊行された図像を含む書物を直接手にして内容を確認し，さらにデジタル化することが望ましく，その努力をしなければならないが，実際には日本各地の図書館，美術館，博物館に散在収蔵されており，網羅的に確認することは限られた人員と費用では不可能である．ところが，近代日本の出版は，これらの近世・近代に図像を含んで刊行された書物を復刻したり，再録したり，あるいは翻刻して普及することを試みてきた．この再録された書物も膨大な量になる．

さらに，近年注目すべき刊行物に博物館や資料館の展示図録がある．図像を含んだ書物は博物館展示の重要な展示資料であることは言うまでもない．各地の博物館が企画展示とか特別展示と呼ぶ展示に際して活用する資料が図像入り書物である．文字資料の展示では入館者には何を示しているかほとんど理解できないし，イメージも得られない．実感を伴う展示には図像は不可欠である．20 世紀に入る頃からは写真が専ら活用されるようになるが，それ以前は筆で描いた図像で示された．博物館の企画展示・特別展示には多くの図像を含んだ書物が展示され，またその図像で解説が行われた．そして，その展示内容を解説した展示図録が印刷刊行される．そこには展示では一部のみが示されていた図像が全幅・全点・全頁完全収録されていることが多い．資料として活用できる細密な図版となっていることも少なくない．

近世・近代生活絵引きあるいは東アジア生活絵引き編さんの前提として，図像情報がなくてはならない．本年度から第 1 班は，COE 研究員（PD および RA）の協力を得て，詳細な生活図像文献書誌データベースを作成することにした．近世・近代に刊行された図像を含んだ書物を再録刊行した出版物を調査し，そこに含まれている近世・近代の図像がどのように書物に収録され，さらにその書物が再録・翻刻されてどのように出版されているかをデータとして収集する．その対象として博物館展示図録ももちろん含まれている．近世・近代に刊行された図像を含む書物についての書誌データ，特に含まれている図像についての情報を把握するとともに，再録・翻刻された出版物についての情報もデータとして記録しようとするものである．この書誌データを本年度から 3 年間かけて作成し，各年度末にはその集積したデータを印刷し公開する予定である．

第三の目標である東アジア生活絵引の編さん作業についても同様の作業を行うことを構想している．しかし，対象は広大・膨大であり，日本と同じようにできるという見込みは簡単には得られない．可能な方法を見極め，これからの研究に役立つデータベースとして構築したいと考えている．その具体化は来年度以降である．

III　書誌データベースのための調査

図像の入った書物の再録・翻刻された出版物についての詳細なデータベースを作成するためには，実際に出版物に直接あたり，内容を確認しつつ行わねばならない．複数の人間がそれに従事するので

あるから，採録の基準も明確にしておかなければならない．研究が本格化した10月に，以下のような書誌データベース作成要領を決め，それに基づいて研究拠点の一つである日本常民文化研究所所蔵の図書について作業を開始した．その後，COEとしても図書資料を購入し始めたので，その図書資料についても入力を開始した．中心はもちろん日本常民文化研究所の書庫に収められている厖大な図書である．書庫に配架されている全点を直接開き，図像の有無を確認し，図像の含まれている分量を判断しつつ，入力をする．収蔵されている図書のうち図像を含むものはわずかであり，無駄の多い作業である．しかし，そのことによっていかなる分野の出版物に図像が多く，どのようなジャンルの図書には図像が少ないかということも経験的に分かってくる．

生活図像文献書誌データベース作成要領

1　**対象**　近世から第2次大戦終了（1945年）までに描かれた生活にかかわる図像を収録した文献を対象とする．図像のみの文献だけでなく，文章に混って挿絵として入れられている文献も収録する．

2　**収録対象文献**　直筆，写本，あるいは木版本などを直接対象とせず，近代以降に再録・復刻などで印刷公刊された文献を対象とする．

3　**対象図像**　生活を描いた図像を取り上げるが，データ化に当たっては幅広く収録する．写真集は対象外とする．また美術的な絵画集も原則として対象外とする．

4　**記入フォーマット**　記入は別紙フォーマットの通りとする．

5　**書名**　書名は収録している文献の表記に従う．研究上，それと異なる名称が与えられていたり，別に普及している名称がある場合は，それを備考欄に記入する．

6　**作者**　作者名も収録されている文献の表記に従う．異説がある場合，その旨を備考に記入する．

7　**成立年次**　最初に公刊された年次を記入する．判明しない場合は不詳と記入する．大凡の年代がわかっている場合は，その年号を記入する．　例：元禄年間，明治後期

8　**校注者**　印刷公刊に当たって，校注を付したり，校訂した人物が明記されている場合は，その氏名を記入する．

9　**書誌データ**　収録書の編著者『書名』（全集や講座類の場合は巻数），発行年次（奥付によって確認できる初版発行年次），発行所，文献の収録ページ（1冊全部の場合も，解題などを除いた文献部分の最初のページと終わりのページを記載する）を記入する．

10　**文献の種類**　以下の選択肢から選んで記入する．

　地誌　日記　紀行文　農書　技術書　随筆　小説（文学作品）　美術書　報道　絵画　その他

11　**図像の内容**　描かれている図像に多く見られる内容．以下の選択肢から選んで記入する．原則として一つのみ選択記入．但し，内容が複数にわたる場合は，複数記入も可．

　環境・景観　身体技法　衣食住　育児・子供　若者・青年　女性　老人　冠婚葬祭　農業生産　漁業生産　林業・狩猟　交通・運輸　娯楽　祭祀・信仰　災害　事件・世相　その他

12　**図像の量**　以下の選択肢から選んで記入．

　図像中心　図像が多い　図像が少ない

13　**図像の資料性**　以下の選択肢から選んで記入．

　写実的　抽象的　戯画・漫画　実測図　その他の表現

14　**対象地域**　文献が記載する内容の対象地域を以下の選択肢から選んで記入．より詳しい情報がある場合は，備考に記入．

　日本全体　北海道　東北　関東　中部　近畿　中国・四国　九州　沖縄

　朝鮮半島　中国　台湾　その他の地域

図像収録文献書誌データ記入用紙

文献名	よみがな	著者	著者よみがな	成立年次	西暦	校注者	収録書（編著者『書名』巻数）
広益国産考	こうえきこくさんこう	大蔵永常	おおくらえいじょう	天保１５	１８４４	土屋喬雄校訂	『広益国産考』岩波文庫
利根川図志	とねがわずし	赤松宗旦	あかまつそうたん	安政２	１８５５	柳田国男校訂	『利根川図志』岩波文庫
綿圃要務	めんぽようむ	大蔵永常	おおくらえいじょう	天保４	１８３３	古島敏雄校注	『日本思想大系』６２・近世科学思想上
秋山記行	あきやまきこう	鈴木牧之	すずきぼくし	文政１１	１８２８	宮栄二校注	『秋山記行・夜職草』東洋文庫１８６
大泉四季農業図	おおいずみしきのうぎょうず	不詳		不詳（近世後期）		犬塚幹士解題	『日本農書全集』７２
薦社絵縁起	こもしゃええんぎ	不詳		元禄４年以前	１６９１以前		『なにが分かるか、社寺境内図』（展示解説図録）
四天王寺・住吉大社図屏風	してんのうじすみよしたいしゃずびょうぶ	不詳		近世前期～中期			『なにが分かるか、社寺境内図』（展示解説図録）

図表１　書誌データの入力例

15　**備考**　備考欄には，文献の特色，内容を簡単に説明する．また書名，作者，成立年代などについて異説がある場合，その内容を記入．記入にあたっては，解題を参照する．

16　**所在確認場所**　データの記入に利用した文献の所在を下記の選択肢から選んで記入．
神大 COE　神大常民研　神大歴民　神大中国言語文化　国立国会図書館　東洋文庫　その他の機関　記入者所蔵

17　**記入者**　データ作成者の氏名を記入．

18　**確認者**　記入内容を確認した者の氏名を記入．確認は１班の研究担当者が行う．記入ミスが発見された場合あるいは情報不足の場合は，修正，追加する．

この作成基準は，1 から 7 までが近世・近代に図像を含んで刊行された書物に関する情報であり，8 と 9 はそれが再録された近代の出版物に関する情報である．10 から 14 までは，データベースとしての検索項目として入力するもので，これはすべて最初の図像を入れた書物に関する情報である．この選択肢による規格化された項目は，利用者の検索の便を考えてのことであるが，その選択肢の選定には問題があることがしだいに分かってきたので，初年度の終了時に一部手直しをすることになる．1 から 14 までの項で情報がすべて入力できるわけではない．書物の作者や刊行年次についても異説があることは珍しくない．また書名の読みでもいくつもあることがある．また簡単な選択肢だけでは図像資料としての書物は理解できない．そこで 15 の備考を設定して，さまざまな情報を文字で自由に入力することにした．入力結果を見ると，むしろこの備考欄が豊富な情報を提供してくれており，利用者に役立つものと思われる．

このような基準に基づいて，実際に出版物を一冊ずつ確認しつつ，パソコンで入力を行っている．その例を示せば図表 1 のようになる．例の一番目から四番目までは近世に刊行された書物が現代に単行本として刊行されているものである．いずれも著名な書物であるが，そこに含まれる図像情報を記した．最初の『広益国産考』は大蔵永常が著した有名な作品であり，収益の上がる商品作物の栽培法を絵入りで紹介している．文献名に『広益国産考』と漢字入力をし，その読みを収録本に従って「こうえきこくさんこう」と入れ（作成要領 5），著者欄には「大蔵永常」と記して，同様によみがなを入力した（作成要領 6）．次に刊行された年次を解題の記載に従って記入する（作成要領 7）．次に，これを収録した文庫本に関する情報を記し，その収録ページを入力する（作成要領 9）．文庫本全部

刊行年次	発行所	ページ	文献の種類	図像の内容	図像の量	図像の資料性	対象地域	備　考	所在確認場所
1946	岩波書店	２５～３３６	農書	農業生産	図像多い	写実的	日本全体	新しい商品作物の情報を提供。	記入者所蔵
1938	岩波書店	１５～３８６	地誌	環境・風土	図像多い	写実的	関東	利根川流域の地誌。	記入者所蔵
1972	岩波書店	１７０～２１	農書	農業生産	図像が少ない	写実的	日本全体	主として畿内・西国の綿作技術を説く。	記入者所蔵
1971	平凡社	７～１７２	紀行文	衣食住	図像多い	写実的	中部	信越国境地域の秋山郷を訪れた紀行文。	記入者所蔵
1999	農山漁村文化協会	６～１５	絵画	農業生産	図像中心	写実的	東北	紙本着色巻子仕立て。庄内地方の１年間の稲作を描く。農作業以外の生活・行事・儀礼は描かれていない。致道博物館所蔵	記入者所蔵
2001	国立歴史民俗博物館	１６～１７	絵画	祭祀・信仰	図像中心	写実的	九州	紙本着色、３幅、大分県宇佐神宮を中心に各社を描く。薦神社所蔵	記入者所蔵
2001	国立歴史民俗博物館	２６～２７	絵画	祭祀・信仰	図像中心	写実的	近畿	紙本着色、６曲１双、大坂の四天王寺と住吉大社の境内を俯瞰し、祭礼の様相を盛り込む。サントリー美術館所蔵	記入者所蔵

が『広益国産考』であるが，解説部分除いた本文のページを記載した．その次からが検索に用いる項目に入力した（作成要領10～14）．その後に備考欄を設け，指定項目に記すことができない情報を入力する．この書物については特色を記した．

当初は冊子体で刊行された書物のみを採録するとしていたが，博物館図録を調査対象とする中で，一枚摺りの図像（例えば浮世絵，錦絵など）も生活図像として資料価値があり，収録対象にすべきだという判断が強まり，12月になってから作成要領に一部修正を加えた．一枚摺りの浮世絵類だけでなく，屏風や掛け軸という美術品でも生活を描くものであれば収録することにし，また紙に描いたものばかりでなく，絵馬のように板に描いた図像も，それが出版物に採録されているものについては収録することにした．要領10の文献の種類の選択肢に絵画を追加した．図表の五番目に掲げた「大泉四季農業図」は『日本農書全集』72巻の「絵農書」に収録された巻子仕立ての絵画についての情報を入力したものである．これは現在の山形県庄内地方の農業を描いた巻物であるが，その作者や成立年代は不明である．そこで，書名のみを記入し，収録書の解説に基づいてその読みがなを記入した．著者と成立年代を不詳とした．備考には，この絵は庄内地方の農業を描いたものであるが，その他の生活場面の描写はないこともあわせて記した．六番目と七番目の例も掛け軸や屏風絵である．もちろん，この二つは博物館の展示図録に収録されて，全体像を知ることができるものである．

IV　図像収録書籍データの価値

このように収録対象を冊子体だけでなく，一枚摺りの図像や絵画，さらに絵馬まで拡大したことによって，収録すべき件数は大幅に増え，しかも書物のように規格化されていないため，入力の労力は大きくなり，結果としてデータ化の速度は格段に遅くなった．しかし，今までこのような試みがなされたことは知らない．収録の速度が遅くなったとしても，進める意義は大きいと考えている．

近世・近代の図像の入った書物を再録・翻刻した出版物の全体像は今まで全く知られておらず，経験的に見当を付けているだけであった．多くの文献を見てきた人物がその所在情報を知っているだけで，情報として共有化されてこなかった．今回の書誌データベースの作成によって，図像資料が近代の出版物の中にどのように収録されているかを容易に知ることができ，しかもその図像の種類や内容

についても把握することができる．最終的な目標である生活絵引きの編さんも今後の人類文化研究に大きく貢献するが，それに先立って広く公開することになるこの書誌データベースも図像に関心を持ち，それを活用して研究を行おうとする人々に役立ち，活用されるものと確信し，その作成を本格的に進めている段階である．

（事業推進担当者）